



プラケン EX シート敷設要領



2020 年 11 月 2 日

株式会社プラケン

神奈川県横浜市都筑区中川中央 2-5-13 5 階

●プラケン EX シート敷設要領

【1】はじめに

日本国内の沖縄から北海道まで24種のシロアリが生息しています。これらのうち、木材・木造建築物に経済的な被害を与えるのは、ヤマトシロアリ・イエシロアリ・ダイコクシロアリ及びアメリカカンザイシロアリの4種です。

樹木は春から夏にかけて成長が活発な時期に形成される早材部（春層）と晩材部（秋層）によって成長し年輪部を形成します。シロアリはやわらかい早材部を好んで食害していくので年輪に沿って食痕が見られるのが特徴です。

シロアリは木材中のセルロースを栄養に出来るため、自身の栄養にならないものでもかじる習性があることから、プラスチック製の配管類や電線ケーブル、断熱材や薄い鉄板でも食害して室内に侵入して行くことが知られています。

光と風を嫌うシロアリは地中や基礎内部に蟻道というトンネルを作り、建物の土台や柱、大引き、根太など継手仕口部の接合箇所から建物へと侵入して行き大きな被害を与えています。

「シロアリの被害から大切な家屋を守る」シロアリの被害を未然に防ぐ対処法については防蟻薬剤による「薬剤の加圧注入木材の使用」「薬剤塗布の表面処理」「薬剤散布の土壌処理」等が主流を占めているが、これらの対処法に加え、近年では地中から建物に侵入するシロアリの習性を考慮した工法である「土壌表面シート敷設工法」が注文されています。土壌散布剤の流失による環境問題や効力の耐用年数問題などで、今後、上記のシート敷設工法の防水・防湿シートに防蟻成分を封入混練りした「防蟻・防水・防湿シート」が主流を占めることとなります。

【2】プラケン EX シート敷設手順（防蟻・防湿・防水）

（1）対象建物と基礎構造

新築住宅建物でべた基礎および布基礎（通常布基礎と変形布基礎）を対象とします。

（2）建設地の整地作業

- ① 地域別の凍結震度を考慮した根入れの基礎構造にすること。
- ② 整地した箇所の墨だし後、根切り、砕石やぐり石敷後、転圧を充分に行い地耐力を確保すること。
- ③ 地域によって整地した土壌にシロアリが生息していると確認される場合、必要に応じて周辺からの侵入予防のために、用地全面に土壌処理剤の散布を行うこと。【3】推奨薬剤（アルトリセット 200SC）
- ④ 土壌処理剤を散布する場合は使用方法・散布方法を確認の上、満遍なく全に散布すること。
 - ・アルトリセット希釈液：水で400倍（本剤500ml+水199.5L）
 - ・面状処理：3L/m² ・帯状処理：1L/m²（200mm中）
- ⑤ EX シートが破れたり、裂けたりしないように注意すること、特に砕石など角の尖ったものは充分転圧して敷き込むこと。
- ⑥ 鉄筋を組む前に砕石やぐり石の表面に EX シートを敷設すること。

※1 下記（囲い内の各場合）参照

- ⑦ EX シートは両端 100mm 中でしわの出ないように重ね合わせて敷き詰め、合わせ端面は EX テープで連続的に、途切れることのないように貼り付けること。
- ⑧ 基礎下からの配管（スリーブ管・電管等）の立ち上がり箇所は EX シートを丸十字状にカットしてから嵌め込み、カット部の短辺を巻き込むように EX テープで隙間のないように被覆すること。
- ⑨ EX シートの巻き込み、嵌め込みの出来ない箇所については、防蟻シール材や防蟻ウレタンオプティーU フォーム等で隙間を完全に埋めること。
- ⑩ 嵌め込みの困難な部位については、あらかじめ寸法カットした EX シートを敷き込み、その上を連続したシートで覆い、重ね合わせた端面を EX テープで隙間のでないように貼り付けること。

※1

（べた基礎の場合）

EX シートは砕石やグリ石上の全面と外周の捨てコンクリート下まで敷き込むようにして、べた基礎構造を施設後、型枠にコンクリートを流し打設すること。

（布基礎の場合）

A. 通常の布基礎の場合

床下土壌表面に EX シートを外構の、捨てコンクリート又はフーチング基礎下まで途切れることのないように敷設し、型枠にコンクリートを流し連続フーチング基礎を打設すること。

B. 変形布基礎の場合

上記 A をしっかりと施工した後、床下全面（土間）にコンクリートを打設すること。

（束石に於ける EX シートの敷設の場合）

- ① EX シートを先に敷いてから束石を置く。
- ② 束石の周辺で EX シートを切り取り、周囲の EX シートとの貼り合わせを行う。
- ③ 束石の上から全面に EX シートを被せて施工する。
- ④ 束石と EX シートとの隙間は EX テープや防蟻シール材や防蟻ウレタンで隙間のないように施工すること。

（玄関ポーチ・土間コンクリートへの敷設の場合）

基礎と玄関土間コンクリート接合部の隙間からの侵入防止。

- ① 玄関ポーチは、基礎工事の段階で土間のコンクリート部分まで EX シートを敷設すること。
- ② EX シートはフーチング基礎又は捨てコンクリートの下から連続するように敷設すること。
- ③ 敷設の範囲は土間の外構より 300mm 以上はみ出すように EX シートを敷設すること。
- ④ 土間コンクリート下と外構部へは、必要に応じて土壌処理を行うこと。

【3】 推奨薬剤（アルトリセット 200SC）

（1） アルトリセット 200SC の特徴

- ① 優れた安全性・残効性・伝播性・速効性を備えています。
- ② イエシロアリに対する 10 年間の長期残効性が確認されています。
- ③ 土壌吸着性が高く有効成分が土壌表層部に留まるので、環境流出リスクが極めて低い薬剤です。
- ④ 土壌表層部に強固な処理層を形成するため、環境汚染も少なく長期に亘り効力を発揮します。
- ⑤ 低蒸気圧で VOC を含まない超低臭性を有しています。
- ⑥ アメリカ EPA（環境保護庁）の新しい安全基準 RRP の基準をクリアした非常に安全性の高い薬剤です。

【4】 注意事項

- ① 基礎下の配管類（スリーブ管・電管等）は先行して施工しておくこと。
- ② 施工現場の気温が低い時は EX テープの粘着力が弱くなるので、予め温めておいて使用してください。
- ③ 降雨の恐れのある時は、施工日の変更や時間をずらすようにしてください。
- ④ 土壌処理剤を使用する時は火気に注意してください。
- ⑤ 施工材料の保管は、高温・高湿・結露等、異常環境の恐れのある場所は避けて下さい。